

広報



No.314

しゅら

平成8年

9月号



祝！成人

8月14日(水)に村コミュニティセンターにおいて成人式が行われました。

こらからの厳しい時代を担う世代の人間として村内、村外での活躍が期待されることでしよう。

— 平成8年度成人式 — 56人の新たな門出

平成8年度の成人式が八月十四日、村コミュニティセンターで行われ、新成人たちが社会の一員として第一歩を歩み始めました。

今年成人を迎えたのは昭和五十年四月二日から五十二年四月一日までに生まれた五十六人で、このうち当日は三十四名が出席しました。



▲出席した34名の新成人

当日は華やかなスーツやワンピースに身を包み、大人の雰囲気を感じた新成人たちが久しぶりの同級生との再会で、お互いの成長に驚く場面もあり、なつかしさと新鮮さの中で、式典が始まりました。式典では木村義光教育長による式辞や「二十世紀はみなさんが主役になる。今まで身につけた感性を大事にしなさい、これからの時代を創ってほしい」と高松村長による祝辞や来賓によ

る祝辞の後、新成人を代表して小山内みちるさん(十三地区)が誓いの言葉を述べました。式終了後は新成人の中学時代の恩師である、風至幹夫氏(元市浦中学校校長、現市浦村文化財保護審議会委員)による記念講演が行われ、新成人達は風至氏の「みなさんは中学時代、熱心に私の話をよく聞いてくれた」との言葉どおり熱心に講話に耳を傾けていました。

その後行われた祝賀会では、乾杯の後、久しぶりの再会を楽しみ、思い出話に花が咲き、それぞれの近況報告と将来の夢を一人ずつ発表する場面では「将

誓いの言葉



小山内みちるさん

二十歳を迎え、一人前の社会の構成員として認めてもらえることとなり、喜び反面、戸惑いも感じている次第であります。これまでは未成年という地域、甘えも許され、たくさんのご援助の方々を支えられ助けられて生きてきました。しかしこれから

は責任ある人格者として社会的に期待され、生き抜く力としての教養を身につけた主体性のある一人の人間として自己形成していかなければなりません。私達は、成人として社会の一員となるわけですが、今後求められ、目指さなければならぬのは、自然を愛すると共に国際化、情報化社会に対応できる多才さと豊かな感性を備えた人格者であります。一歩一歩はありますが、日々学ぶという姿勢を忘れず、目指す人間像に向かって努力していくと決意しております。



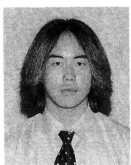
▲晴れて解禁となった(?)ビールで乾杯!

新成人からひとこと



有馬久美子さん
(十三地区)

地元に戻ると縁が多く、ほっとする。開発も確かに大事ですが、市浦のめぐまれた自然も大切にしたい。



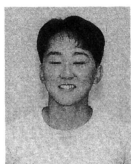
奈良 満さん
(太田地区)

市浦村の若者は都会の若者と比べて、暗いと思う。でも村の人たちは人情深く、困ったときに助かるのはやっぱり地元の人間。



秋月 様子さん
(十三地区)

私たちが地元に戻ってきただとき、やすらげる市浦村にしてほしい。



古川 広俊さん
(太田地区)

地元に戻ってくると心が安まる。私は長男なので、できれば地元に戻って働きたいが、現状では不可能なのが残念。



夏祭り盛大におわる

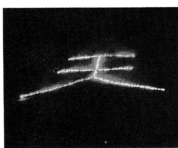
八月四日には、前日から降り続いた雨も午前中には上がり人気歌手高橋克典さんのライブコンサートがつくって待っていた観客が入れ、漁火をバックに開演高橋克典さんが登場し歌い始めると、町内外から訪れた後二五〇〇人の観衆が総立ちし、両手を振りかざし全身でリズムをとっていました。

コンサート終了後には、海の「龍神」が山の女神に恋をして、年に一度龍燈となつて逢いにくるといふ伝説を巨大な「天」の火文字で再現する「エゾ地の火まつり」が始まり、女神とたいまつを持った龍神が現れ、龍船太鼓を合図に龍神の使いである五人の神火隊がたいまつを片手に登場し龍神からたいまつに火をもらい、それから白装束の若者へ火を引き継ぎ若者が夷王山へ登り火を点し、火と勢いが増

友好町村だより ⑪

かみのくに 情報ランド

し「天」の火文字が浮かび上がり、見守る観客から大きな歓声と拍手がわき起こりました。



▲伝説を再現する天の火文字

当日は北海道夢れいコンサートの「エゾ地の火まつり」コンサートツアー臨時団休列車「KANTSUUNORI エクスプレス」が

当初の発売分に当日の乗車希望者を加えた九十八名の特典ファンを乗せて上ノ国駅を発車しました。



▲「日本海たいまつ明かし」の一場面

作業をしていただきました。十五日に予定されていた日本海たいまつ明かしなどの行事は、台風十二号の影響であいにくの雨のため一日順延され、十六日に上ノ国小学校特設会場で、夕方の六時半から納涼降りが、橋を中心に浴衣姿の踊りの大きな輪ができていました。

午後八時からはいよいよ「日本海たいまつ明かし」の開演。威勢の良い若者がグラウンドに設置した巨大たいまつ七基に火を点すと、会場からたいまつ五宗竹が割れる音が響き、たいまつが激しく燃え上がる火と上ノ国鼓友会による龍船太鼓の鼓動と熱気の渦に包まれていました。この後、花火大会「ドラゴンファンタジー」が行われ、七百二十発もの花火が打ち上がり、また夏のファイナレを飾りました。



▲五連覇を達成した梶浦武さん

梶 浦武也さん五連覇達成！
 第五十二回県体育大会

八月十七日、十八日の二日間
 に渡って「はばたけ県民！郷土
 の和」をスローガンに、第五十
 一回県民体育大会が黒石市を主
 会場に開催されました。

本村からは総勢五十名の選手
 役員団を送り込み、今大会で村
 の部、男子一〇〇m五年連続優
 勝を果たした梶浦武也さんをは
 じめ各競技において活躍しまし
 た。なお、おこな成績は次のと
 おりとなっています。

・陸上競技
 男子一〇〇m
 優勝 梶浦武也



浦武也さん五連覇達成！
第五十二回県体育大会

男子砲丸投げ

優勝 一戸俊一

水泳競技

男子二〇〇m自由形
 優勝 斎藤祐幾

男子二〇〇m個人メドレー
 優勝 斎藤祐幾

バドミントン競技

団体戦 第三位

+ 三湊遺跡発掘調査へ役立てて
 (株)サカタ事務機が三十万円を寄附

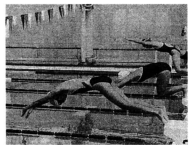
八月二日、青森市久須志に本
 社を構える(株)サカタ事務機の坂
 田昭代表が役場を訪れ、「十三
 湊遺跡発掘に役立てて下さい」と
 昨年引き続き三十万円を寄
 附しました。今回の寄付金も、
 一昨年より村全体で進めている
 遺跡の発掘調査を進めるための
 費用として、サカタ事務機の善意
 に感謝し、有意義に活用するこ
 ととしています。



▲目録を手渡す坂田代表



▲バドミントンも団体3位入賞



▲スタートの号砲で飛び込む選手たち

B & Gスポーツ大会
 青森県大会

八月九日、村海洋センターで
 B & Gスポーツ大会、青森県大
 会が開催されました。

当日は市浦村を含む、全十五
 市町村から三十四名が参加し、
 コミュニティセンター大ホール
 で行われた開会式では秋庭大
 会長、木村教育長、高松町長の
 あいさつに続き、市浦村選手団
 から代表として秋田亜里美さん
 の宣誓のあと、各会場でカナメ、
 ローポット、OPヨット、水泳、
 剣道の各競技で熱戦を繰り広げ
 ています。

なお、本村から出場した選手
 の主な結果は以下のようになっ
 ています。

・カヌー競技
 小学生男子
 一位 浜田祐輔
 小学生女子
 一位 濱田祐輔



▲水しぶきを上げながら力泳する選手たち

- 中学生男子
一位 内藤隆一
- 中学生女子
一位 秋田亜里美
- 高校生男子
一位 高橋美緒
- 高校生女子
一位 白川友和
- 高校生男子
一位 中島扶紀子
- ローポット競技
男子の部
一位 亀田奈良
- 女子の部
相坂浜田
- OPヨット競技
一位 梶浦相坂
- 若山、小山内
- 中学生の部
一位 若山宗裕
- 中学生女子
一位 豊島幸治



▲祭りの花形、みこし運行



▲婦人会の方々による流し踊り

十三の砂山まつり 盛大におわる

本村の伝統ある夏のイベント「十三の砂山まつり」が八月十三日から十六日の四日間開かれました。

初日である十三日は、十三小学校錦田校長先生によって描かれたこどもねぶたの運行や子供会のお母さん、婦人会の方々共演によるしゅうら音頭の流し踊りの運行。

最終日の十六日は小学生、中学生、子供会のお母さん、婦人



▲仮装盆踊り大会での一場面



▲こどもねぶたの運行

会、保存会の方々による十三山流し踊りや、威勢の良いかけ声で、重さ二百キロもあるみこしを担いで十三地区を練り歩く十三壮青年団によるみこし運行が行われ、フィナーレの仮装盆踊り大会では各々趣向を凝らした仮装で会場を盛り上げていました。

今回の十三の砂山まつりに限らず、人口の減少に伴い、まつりへの参加者が年々減っています。来年のまつりは、今年以上のみなさまのご協力をお願いします。

姫神

十三湖コンサートに寄せて

七月二十三日、雨のなか行われた姫神・奥津軽十三湖コンサートの感想を中井喜世さん（十三地区）から寄せられましたのでご紹介いたします。次号では村外のみなさまからお寄せいただいた感想等を中心にご紹介する予定です。

姫神に 二度会えろと思ひしや
老たる吾が目にも まぼろし浮かぶ

雨の中 創作太鼓はじまりぬ
若人達の 汗の流れと

こきゅうの音心にひびくあの曲は
雨の音さえ 気にもか、らず

奥津軽 姫神ひびく夏の夜
ライトに浮ぶ 早池峰の舞

合唱団 中学生も共演す
世の中に咲け 紅白の花に

ご感想ありがとうございました

源氏物語

▶70◀

後之年の取 手邊様流

(5)

家衡、高ぶる

国司の源義家が、家衡の待ち伏せをして居ることを明から聞いて出羽の国に入らないで国府多賀城へ帰つたことを入らないで清原家衡は大言壮語します。

「義家は天下第一の武將と聞いていたのだが、この家衡が一戦しようと待っていたことを知りながら、国境から引き返すとは、何たる腰抜けだ。これは家衡の武勇を恐れ戦わずして逃げ帰つたものだ。」

と、一族や徒党の悪党らに向かって広言したのです。そして、あたかも大勝利をしたように喜び勇んで一同に勝鬨を三度あげさせて沼橋に引き返します。



この家衡の自惚れが身を亡ぼすことになるのです。

武衡、味方となる

この事を、奥州に伝えて聞かされた兄（一書では伯父）清原武衡は手勢を引き連れて家衡の沼橋に馳つけ家衡と対面します。

「天下にその名を知られた猛将義家を敵として、一日というとも追返した高名は、和殿（家衡）一人の高名ではなく、ともに武衡の面目でもある。国司に不平を抱いている者は和殿にみない味方するであらう。」

と、言つたものだから家衡の心はますます高ぶることになります。また、そこに居合わせた郎党争力の悪党も手をたたいて喜びを限りなしという具合でした。

また、武衡は、「この沼橋（秋田県平鹿郡雄物川町沼橋）は分内が狭く、多くの兵士の宿所がない。その上特に要害の地でもない。これから直ちに仙北金沢橋（秋田県橋手市金沢）に籠もつた方が得策だと思ふのだが如何でしょうか。」

と、推奨します。家衡も尤もだと賛意を表したので、沼橋を捨てて兄弟打連れで金沢橋に籠籠ることになりました。更に家衡・武衡は、義家が出羽に入国しないで帰国したことは、家衡の武威に恐れたものだから、家衡の麾下に集まるようにというらう枝葉をつけて宣伝したのだから、思慮の浅い者たちは、「家衡という人物は、それほどの猛将であつたのか、急いで家衡に帰属して、この機会を逃さず一手柄をあげ我が家を起こそう。」と出羽の国中はいうに及ばず、越後（新羽）・越中（富山）・信濃（長野）・飛騨（岐阜）の藩者たちが、我も我もと馳せ集まり、忽ち雲霞の勢になつたということです。

義家、軍勢を催す

さて、このような武衡・家衡の策謀が奥羽両国を震撼させます。清原家の内輪もめが義家の仲介で、真術と秀武とが和解して落ち着いたとばかり思つていた両国の武士間では、武衡・家衡が將軍家を亡き者にしようとしてきたという噂で明けても暮れても持ちこたれで上下への大騒ぎとなりました。義家はこれ聞いて烈火のように怒ります。

「清家一門の争動にこの義家が公平に仲介して一族が和睦となつたのに、何故に家衡一人根性曲がりして謀反を企てるのか。このままにしておいては、

貞任の乱（前九年合戦を指す）のようにならう。今、最小の騒ぎの中に押さえて置かないと、大事に至るであらう。武衡・家衡征討の軍勢を諸國に催すようにせよ。」

と命令を発します。国中は勿論陸奥に至るまで軍勢催促の状が発せられます。吉澤秀武および清家の一族藤原清衡を始めとして国中の兵一人残らず義家の傘下に馳せ参じます。ただ、出羽から義家に味方した兵は一人もなかつたということです。

秩父十郎武綱（一番乗り）

武藏國の任人秩父十郎武綱が三百余騎を引き連れて一番に國府に参向します。義家は一方ならず大喜びで近くに呼び寄せ礼を厚くして対面します。

この武士の先祖は、高祖王の九代後風扶父別当武基の二子で、前九年合戦の時にはまだ幼稚で参戦出来なかつたことを母から聞いて養育され、今この機会にと取る物も取り敢えず参向した旨を義家に告げます。義家はその喜びを籠めて賞賜し、一番に参着した證據に今度の先陣を命じ、その上白旗一流を授けたということです。この武綱は後世の高山重忠の先祖に当たるといふことです。

上図は、大宅光任が年八十才で義家の出陣に馳せつけた絵です。後述します。

市浦村の成人の学習に関する意識と実態調査報告書①

村社会教育の現状とその問題点を把握するとともに、村民の学習活動を支援・促進するための中長期社会教育の作成等の基礎資料や村内成人の学習活動に関する意識や活動の実態等を総合的に把握するため、平成7年3月に行われた実態調査の結果を数回にわたってお知らせします。

調査項目

学習活動の実態について
学習活動の要望について
広報活動について

調査の方法

調査対象 20歳以上の村民
調査地域 市浦村全域
標本数 800人
抽出方法 住民台帳から無作為抽出
抽出方法 郵送
調査期間 平成7年3月

回収結果

配布数 800標本 回収数 580標本 回収率 72.6%

意識・実態に関する分析

問1. 調査対象の属性について

- ・回収率は、全体で72.6%。もっとも高いのが相内・桂川地区の80%台、低いのが磯杖の61.7%。まあまあ回収率であり、性別では、女が60.1%と多い。
- ・年齢も、40代を中心に分布。村の年齢構成に比例した形になっている。
- ・職業も同様で、会社・団体職員が最も多く、次いで農林漁業や公務員が多い。家事専業は、14%台となっている。学生は0.2%と低い。

【定住希望の意識について】

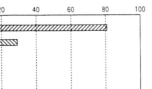
問2. 市浦村の長所だと思うのはどのようなことですか。
「住みたい」～63.9%で、3人に2人が希望。10人中1人は「出来ることなら移りたい」であり、「どちらとも言いえない」と入れると、3人に1人は市浦在住を積極的には望んでいないことになる。



A - ずっと住みたい	371 (63.9%)
B - 移住したい	63 (10.8%)
C - どちらとも	147 (25.3%)
合計	581

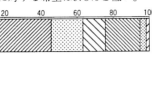
【市浦村の「長所」について】

問3. 市浦村の長所だと思うのはどのようなことですか。
「自然に恵まれている」が80.7%と圧倒的に多く、次が「ゆったり生活できる」(29.1%)「素朴な田舎らしさ」(15%)、「観光資源」(13.6%)で、伝統行事や郷土芸能については2.2%と低く、魅力の薄れが心配される。



【住みよい村づくりの要件について】

問4. 市浦村を住みよい村にするために最も必要だと思うことは何か。
・産業の振興が35.8%で、3人に1人が希望、次いで自然の活用と保全が19.3%。福祉の充実が17.6%で、意外にも教育・文化・スポーツの環境整備に対する希望は9.8%と低い。



【「休みの日」について】

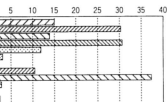
問5. 「休みの日」は、ひと月に何日くらいありますか。
・「休みの日」は、5日から7日目に集中、合わせて62.3%。「ない」と「1～2日」は合わせて18.2%と結構あるが、家事をする女性の回答だろうか。



(単位:人)	
A - 1～2日	53 (9.1%)
B - 3～4日	113 (19.4%)
C - 5～6日	162 (27.2%)
D - 7日以上	200 (34.4%)
E - ない	53 (9.1%)
合計	581

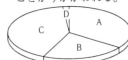
【休日の過ごし方について】

問6. 「休みの日」どのように過ごすことが多いですか。(複数回答)
・家族との団楽やショッピングが37.3%、ラジオ・テレビ・読書やゆっくり休養が約30%ちやよと高い。低いのは、映画・音楽鑑賞やスポーツ及び教育委員会・公民館の事業参加となっている。



【自由に使える時間について】

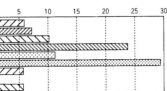
問7. 自由に使える時間はどのくらいありますか。
・「十分にある」が「かなりある」の57%、反対に「あまりない」が41%と非常に多くの成人の学習の促進の障害となっていることがわかる。



(単位:人)	
A - 十分ある	294 (51%)
B - かなりある	127 (21.9%)
C - あまりない	241 (41.5%)
D - まったくない	9 (1.5%)
合計	581

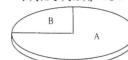
【自由時間にしたいことについて】

問8. もし自由な時間があれば、特に何をやってみたいと思いますか。
・「旅行」29.4%、「趣味やスポーツ」23.8%が高率で、それに次ぐのが「収入のための仕事」11.2%、「何もしたい意味で休養」が10.2%で自由時間も収入増のために活用したい意思があることがわかる。



【生涯学習という言葉について】

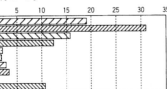
問9. 生涯学習という言葉聞いたことがありますか。
・「知っている」が75.7%で、4人うち3人が聞いていたが、4人に1人は聞いたことがないことになる。



(単位:人)	
A - ある	440 (75.7%)
B - ない	141 (24.3%)
合計	581

【学習方法について】

問10. 学習する場合、どのような方法で学びたいと思いますか。
・「気の合う仲間」が31%と圧倒的に多く、次いで「一人で学習」が19%、「教育委員会等の講座」が約16%、「仕事関係の研修会」が12%で、仲間や一人で、仕事関係で約3分の2を占めていることが分かる。



知っていますか？通院医療費公費負担 精神障害者保健福祉手帳

精神障害者通院医療費公費負担制度

通院した場合、病院窓口で医療費をどれくらい支払っていますか？
県では、この通院医療費公費負担制度により、通院している方の医療費の負担軽減を図っています。この制度を利用することによって、通院の場合、窓口で**医療費の5%を自己負担**するだけになります。

※精神障害の治療上必要と認められる医療が対象。

〈制度利用の手続き〉

- 精神障害者本人あるいは保護者が申請書類を添えて申請。
 - 申請窓口……保健所
 - 申請書類
 - 「障害者手帳」ない人
「申請書」と「診断書（意見書）」
 - 「障害者手帳」ある人
「申請書」と「障害者手帳」（※診断書は必要なし）
 - 「障害者手帳」と同時に申請する人
「申請書」と「診断書」又は「申請書」と「年金証書の写し」
- 県から患者票を医療機関に直接送付。
（患者票の交付によって制度の利用可）
- 受診時の自己負担額が医療費の5%になる。
*医療機関では、申請手続きの代行をしていますので、病院窓口で御相談下さい。

〈有効期間〉

- 原則2年（2年ごとの更新手続きが必要）

精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳は、精神障害者の方の社会復帰を支援することを目的に作られたもので、障害者の方のプライバシー保護に配慮されています。

〈手帳対象者〉

- 精神疾患を有する人のうち、精神障害のため長期にわたり日常生活又は社会生活への制約のある人。但し精神薄弱者の人は含まれません。

〈手帳取得の手続き〉

- 精神障害者本人が、申請書類を添えて申請する。
 - 申請窓口……保健所
 - 申請書類……「申請書」と「診断書」か「申請書」と「年金証書の写し」のいずれか。*年金証書の写しの場合は同意書と直近の年金振込通知書、又は年金支払通知書が必要です。
- 県で判定を行い手帳を保健所に送付し、保健所から申請者に交付。

〈手帳による福祉サービス〉

- 通院医療費公費負担申請の手続き簡素化
- 生活保護法の障害者加算の認定
- 税制上の優遇措置等

〈有効期間〉

- 2年（2年ごとの更新手続きが必要）

▶相談窓口 五所川原保健所
電話番号 34-2108

▶お問合せは 役場住民福祉課
電話番号 62-2111

申請書は役場に準備してあります。
ご相談ください。

市浦村史第2巻が 発売されました

当村ではこのほど、「市浦村史」第2巻「阿倍・安東（藤）氏編」を発刊しました。中世時代、津軽・十三湊で栄えた阿倍・安東氏の盛衰を、村内に豊富に残る遺跡などを基に考察しています。

第1巻「蝦夷の世界」に続く第2巻は、3章で構成されている。平安時代末期の「前九年の役」から始まる津軽阿倍・安東氏の誕生、平泉藤原氏と津軽安東とのかわり、中世、十三湊を本拠に津軽一帯で勢力を振るった安東氏の興亡を、さまざまな史料、文献を手がかりに推察している。

- ▶価目 4,000円
- ▶お問い合わせ 村教育委員会
- ▶電話番号 62-3751

ハローワークアンサー が設置されました

「ハローワーク」とは、「公共職業安定所」の愛称です。「ハローワークアンサー」は、求職者や専業主婦の方々に、雇用保険の各種給付金・助成金などの疑問に対して、安定所の窓口で代わって、いつでも、どこからでも、電話やFAXで自動的にお答えするシステムです。

電話番号
0177-22-8609

年末調整説明会開催の お知らせ

今年も年末調整の時期を迎えますが、税務署では説明会を下記の日程で開催いたします。

日時
11月21日（水）
開始時刻
10:00～
説明会場
金木町中央公民館



在宅栄養士講習会の お知らせ

青森県では、各市町村が行う健康教育・健康相談等の保健事業をはじめとした各種の健康づくり事業に協力する意欲のある在宅栄養士の発掘を行っています。在宅栄養士で保健事業等に協力していただける方を対象に保健所で再教育講習会を実施します。

また、保健所の栄養士バンクでは、再教育講習会の修了者等の登録を行い、今後の健康づくり事業のマンパワーとして提供させていただきますこととしております。

在宅栄養士として活動を希望する方は各市町村に備え付けの「在宅栄養士再教育講習会受講希望者調査表」に記入の上、五所川原保健所へ提出して下さい。

- ▶提出先
五所川原保健所
- ▶電話番号
34-2108

10月13日～10月19日は 行政相談週間です

毎日の暮らしの中で、役所を行う仕事についての苦情や要望などがあるとき、もっとも身近な相談相手になるのが、地元の行政相談委員です。

県内の交通事故概況

青森県交通対策協議会

8月	累計	死者のうち
発生 825 (765)	5,350 (5,281)	28 (16)
死者 19 (12)	89 (87)	23 (14)
傷者 1,003 (945)	6,465 (6,456)	49 (49)
		35 (41)
		14 (19)

()内は前年。累計は1月から。

市浦村の人口と世帯数 平成8.9.2現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,291	1,285	408
桂川	71	71	23
太田	291	295	90
脇元	559	556	199
磯松	313	311	113
十計	806	805	250
三	3,331	3,323	1,083

相談は、口頭や電話、手紙のいずれでも結構です。今回は、特設会場を開設いたしますので、会場へおいで下さるか、いつでも行政相談委員へ、直接ご連絡下さい。

また、相談は無料で、秘密は堅く守ります。

- ▶行政相談委員
市浦村大字十三 小山 巖
- ▶電話番号
62-2244
- ▶特設行政相談所の開設
10月15日(火) 十三公民館
9:00～12:00
10月16日(水) 相内旧社協
9:00～12:00

中里高校創立20周年記念 高橋竹山三味線公演

中里高等学校では創立20周年式典を11月8日に予定しております。

それに先だって、文化祭において津軽三味線の大家として世界的に有名な高橋竹山氏を招き見事なバチさばきとその独特な語り方を鑑賞して頂く計画を立てました。

生徒対象で計画を立てましたが、各方面からの要望が多く、地域住民にも公開することになりました。つきましては、ぜひ記念公演にお出で頂きたいご案内申し上げます。

- ▶日時
平成8年10月6日(日)

10時30分～11時10分

- ▶場所
中里高等学校第一体育館
- ▶入場料
無料
- ▶申し込み
入場整理の都合上、鑑賞ご希望の方は以下の申込先まで
- ▶申込先
青森県北津軽郡中里町大字高根字小金石567
青森県立中里高等学校
八幡 正敬 まで
- ▶電話番号
58-3149

景観作品の 募集について

本県の美しい景観を撮影した写真を募集しています。

- ▶応募資格
プロ・アマチュアを問いません
- ▶応募作品
県内67市町村それぞれの美しい景観を撮影した写真(リバーサル又はネガカラーで35mm以上、L判以上のプリントを添付)
- ▶応募締め切り
平成9年1月31日まで
- ▶応募方法
作品に、住所・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢・職業・作品タイトル・撮影場所・撮影年月日・撮影内容(ねらい、説明)を記載した応募票を添えて郵送してください。
- ▶入賞(30万、10万、1万)
大賞1点、特選2点、入賞64点
- ▶問い合わせ先・応募先
青森市長島1丁目1-1 青森県企画部企画調整課「文化・景観担当」
- ▶電話番号
0177-22-1111(内線2157)

健康への道

No. 101

ペットとくらし

犬



6ヶ月以下の子犬は、犬回虫症が心配。(寄生虫腸炎)

猫



トキソプラズマ原虫特に、妊婦さんは気を付けて。

小鳥



オウム病のこともあるので、人から口うつしでエサはやらない。(クラミジア微生物による感染)


ミドリガメ




サルモネラ菌をもっていることもあるので、さわったら必ず手を洗う。

○ペットといっしょに暮らす病原性大腸菌O157による食中毒が大発生しました。今、各ご家庭では調理に注意し、また清潔に注意しているでしょうか。調理をする時、食事の前、排泄の後などを清潔にし二次感染を防ぎましょう。家族の一員として、ペットを飼っている家庭があると思えます。そのペットが原因になって

病気をひきおこすことがあります。なかには、食中毒になることもあります。ペットを飼う場合は、部屋の中をいつも清潔にし、犬や猫の毛、鳥の羽毛などが下に落ちていないようにしましょう。また、ペット口移しにたべさせたり、一緒にフトンに寝るといった習慣はやめましょう。しかし、動物とふれ合って暮らすことで情操が育てられます。生きものに対する思いやりなど、ペットから学ぶことがあるので、少し気をつけて共に暮らしましょう。



紙ばんそう膏にコメつぶをのせ、肩こりの一番いたい所に貼る。



ツボが刺激され、少しずつ肩こりがよくなる。


③肩こりのツボを刺激

○手軽にできる健康法
去る八月二十七日、コミニニティセンターにおいて「痴呆疾患予防講習会」が開催されました。医療法人とさわ会病院の山生理事長から、手軽にできる健康法を教えてくださいましたので、皆さんにもお知らせしたいと思います。

①線香は安くて太いものを買う。
②お灸のかわりに、自分の痛いところに近づける。少し皮膚が赤くなるくらい。
③ドライヤーで痛いところをあたためる。膝や肩、腰など。しかし、炎症しているときは禁忌です。

各事業所に調査票をお届けします。
事業所・企業統計調査にご協力を。

届いたら早めにご記入を。



事業所・企業統計調査

平成8年10月1日(火)

9月下旬から調査員がお伺いします。

総務庁統計局 青森県

戸籍の窓

▽お誕生

成田明日香(相内) 壽光
福田美有(十三) 慶太

▽おくやみ

米谷タカ相内 85才
三浦直一(相内) 85才
楠引芳江(脇元) 64才
伊南さき(磯松) 69才
山田宇之吉(十三) 84才

長谷川 一太 鯉ヶ沢
福島 育子 十三
渋谷 隆一 十三
松崎 みゆき 青森
水田 徳美 米相 造
三和小枝子(相内)